成果の説明書

(氏名) 塩澤 康平	(学部) 経済学部

1　重要事項

個人の選好を調査するための実験手法について、研究に取り組んでいる。

分配に関する選好のモデルとして用いられる標準的な CES 型効用関数の欠点を示し、それを回避するための新たな効用関数を提案する研究成果を論文としてまとめ、ディスカッション・ペーパーとして公表した。現在、海外の学術誌に投稿中である。
Inukai, K., Shimodaira, Y., & Shiozawa, K. (2024). Revisiting CES utility functions for distributional preferences: Do people face the equality–efficiency trade-off?. ISER DP, (1195R).

時間選好の実験に用いられる CES-QHD モデルの問題点を指摘する論文が、学術誌 Journal of Behavioral and Experimental Finance に掲載された。
Inukai, K., Shimodaira, Y., & Shiozawa, K. (2024). Investigation of the convex time budget experiment by parameter recovery simulation. Journal of Behavioral and Experimental Finance, 43, 100962.

企業の形成を内生的に扱うための一般均衡モデルについて、共同研究を実施している。

産業が複数あることを明示的に取り入れたモデルにおいて、均衡解の存在問題を分析した。消費者に関する典型的な仮定と、企業に関する平衡性条件のもとで、解の存在を定理として示した。以上の結果を以下の研究集会にて報告した。現在、投稿に向けて論文としてまとめている。
陳 偉業, 浦井 憲, 塩澤 康平, 村上 裕美 (2024). A general equilibrium model for an economy with investment, firm formation, and a stable multi-layered industrial structure. 2024 年度数理経済学会研究集会, 関西学院大学 大阪梅田キャンパス.

2　その他の事項

高校への出前授業を実施した（群馬県、2024 年 10 月）

3　次年度以降の計画・抱負

引き続き、経済実験に関するモデリングと測定の研究、および一般均衡モデルの研究を実施する。モデリングに関しては、パラメトリックな効用関数から導出される回帰モデルの残差項、および、リスク選好の効用関数に関する研究を実施したい。また、測定に関しては、データ収集手法の違いが被験者の行動にどのような影響を与えるのか研究したいと考えている。